

基幹システムアカデミー

京都市が2014年から81億円を投じて進めていた基幹系システム刷新プロジェクトが失敗した事案が、訴訟合戦に突入した。同市では、国民健康保険、介護保険、税、住民基本台帳などの基幹業務システムについて、大型汎用コンピュータを利用して30年間運用していた。このシステムは、特定事業者の固有の技術で作られたものに、改修を繰り返しながら更新してきたため、最新技術を利用した行政サービスへの対応が困難になっている。さらに、運用経費の高止まりなどの課題を抱えていることから、一般に広く利用されている最新技術により、機器及びシステムを刷新する「オープン化事業」に、平成26年度から取り組んでいた。このような事例は、京都市のもつ特殊な事情もあるが、地方自治体、政府官公庁に限らず、民間企業でも十分に考えられる要素を持っている。20年、30年と長期に渡り、だましだまし、あるいは温泉旅館のように増改築を繰り返している例は多くみられるし、これからが正念場を迎えようとしている。この研究会では、ユーザー企業の基幹システムの現状や再構築に取り掛かっているところの事例と課題を収集し、情報交換を行う。

テーマ型ではなく、事例研究型です。

- (1)前半 (16:00~17:15) 主催企業から基幹システムの事例と課題等につきご発表いただきます。
- (2)後半 (17:30~19:00) 参加企業からの質疑応答ならびに、各企業では同じような課題をどう克服されているのか等の議論。

・参加対象、募集人数

(情報システム子会社で「基幹システムの構築」に関わりを持っておられる管理者、PM、SEの方を中心に10社程度。

・開催日程、時間

隔月開催、奇数月の原則第3または第4木曜日 時間帯はいずれも16:00~19:00

4月18日(木)、6月27日(木)、8月22日(木)、10月24日(木)、12月19日(木)、2月20日(木)

テーマ

- (1) 全体観 (身の丈に合った計画)
- (2) 開発手法の採用 (ウォーターフォール、パッケージ選定と注意点)
- (3) 現行保証の陥穽
- (4) RFP(Request For Proposal)の記載レベル (曖昧な記載)
- (5) 発注者しかできない作業の存在 (ユーザーの参加)
- (6) 推進体制と責任者の権限
- (7) 作業をした結果を何で保証するのか (その計画と条件を明確に)
- (8) フェーズ別契約の採用 (発注者と受注者の間のトラブルの回避)
- (9) リスク管理 (スケジュール遅れ、不足の費用への備え)

